

学会報告:クリティカルリンク7 Critical Link 7

大野直子

(東京大学 法政大学)

「Global Awakening: Leading Practices in Interpreting」をテーマにした国際学会 "Critical Link 7"が、2013年6月18日から20日までヨーク大学のグレンドンキャンパス (Glendon, the bilingual campus of York University) で開催された。トロントから電車で一時間以内の郊外にあるヨーク大学は、住宅街の中にある緑豊かな大学である。学会の開催された当日は天候にも恵まれ、緑に囲まれた白い校舎が陽光を反射して明るい雰囲気を出していた。1960年創立のヨーク大学はカナダで3番目に学生数が多い総合大学であり、グレンドンキャンパスは英語とフランス語の両言語での教育に力を入れているリベラル・アーツが中心のキャンパスである。

Critical Link 7では通訳関係者400名以上が一堂に会し、21世紀の国際化社会に貢献していける通訳の研究、実践についてというメインテーマのもと、いくつかのサブテーマに分かれたセッションでの研究発表を行った。学会の開催は7回目だが、私自身はCritical Linkでは2度目の発表であった。2010年にバーミンガムで開催されたCritical Link6は、学期が終了後の開催時期であったため、多くの日本人研究者が参加されていたが、今回は学期の最中であったためか、日本からの発表者は関西外国語大学の毛利雅子先生(法廷通訳)と私(医療通訳)の2名であった。

前回と同じく、今回も学会ではパラレルセッションという形を取っていた。セッションの詳細は、表のとおりである。会場が小規模だったため、会場から会場への移動が前回より楽に行え、また休憩時の交流がしやすかった。また、学会の前日に、実務家によるノートテキングのブートキャンプが行われるなど、実務の面でも配慮されていた。

印象に残った発表をいくつか紹介する。まず、ソーシャルメディアを使った通訳教育についての発表、Daniel E. Josephy-Hernandez & Marta Stelmazak 両氏の "Social Media Platforms in Interpreter's Continuing Professional Development" である。この発表はイギリスでオンラインで行われた通訳の勉強会の報告であった。ブログ、ツイッター、フェイスブック、Google+など、各ソーシャルメディアの利点と欠点を述べたうえで、人数を限定してClosedな状態で3か月の継続教育を行った報告が行われた。実践報告では、対面での講義にはない低コスト、時間・場所を選ばない学習、教師によるコント

ロールのしやすさなど様々な利点が報告された。個人情報保護を気にするのは日本人の特性ではないかと考えていたが、質疑応答では個人情報の流出についての懸念が相次いでいた。Closedな環境で、慎重に情報をコントロールすれば、ある程度の流出は防げるが完全ではないというのが発表者と聴講者の一致した見解であった。しかし、質疑応答で、フィンランドに500人以上のメンバーを擁する医療通訳のオンライングループがあり、問題なく有意義な活動をしている例も報告された。オンラインやマルチメディアを使用した教育に関する研究は、「21世紀の通訳」というセッションにまとめられ、連日5~6件の発表があった。アメリカにおいても現在、医療通訳のオンライン教育のβテストが進行中であり、オンライン教育は今後ますます注目を集めるものと思われる。

次に、コミュニティー通訳のデータベースを構築中の、York大学准教授 Philipp Sebastian Angermeyer氏による The "community interpreting database"- a tool for sharing data on community interpreting も印象的であった。企業からの助成金を受けて構築中のコミュニティー通訳データベースは、対象者から許可を得て作成した動画、テキストファイルを収集、公開しており、教育研究目的であればシェア可能とのことであった。

(<http://www.yorku.ca/comindat/comindat.htm>)

ポスター発表では、今回口頭発表ではあまり見られなかった手話通訳関連の研究が報告されていた。また受付はもちろん、口頭発表のほとんど全てに手話通訳がついていた。

最後に、Critical Link7の開期中に行われたウィーン大学の通訳学教授 Franz Pöchhacker氏のインタビューの内容を紹介する。氏によると、近年の通訳研究のキーワードは Quality, Technology, Professional ecology of working condition, コミュニティー通訳においては remote interpreting とのことであった。氏自身も、Critical Link7で "Remote Interpreting in Pediatric Interviews: A Pilot Study" というテーマで発表をされていた。Pöchhacker氏のインタビュー内容は YouTube 上に無料で公開されている。

(https://www.youtube.com/watch?v=a5hKUb1AL5w&feature=player_embedded)

今回の学会では、世界中から集まった参加者の方から、研究テーマや各国の最近の研究動向についてうかがうことができた。次回の Critical Link はスコットランドのエジンバラで2016年に開催予定である。

表：Critical Link7 パラレルセッション

| サブテーマ | 発表件数 |
|--|------|
| Innovations in Healthcare Interpreting | 17 |
| Insights into Interpreter Training | 16 |
| Interpreting in the 21st Century | 11 |
| Research Priorities in Interpreting Studies | 10 |
| Status of the Profession | 10 |
| Breakthrough in the Courtroom | 10 |
| Best Practices in Service Provision | 9 |
| Assessment, Policy, and Gender Issues | 9 |
| Ethical Considerations in Interpreting | 5 |
| Local Problems, Global Solutions | 5 |
| Important Developments in Profession | 4 |
| Protecting Minority and Indigenous Languages | 3 |
| Poster Session | 13 |
| Panel Sessions | 6 |

各セッションの詳細は下記 URL のとおり。

<https://www.glendon.yorku.ca/criticallink/wp-content/uploads/2012/11/CL7-Schedule-07.pdf>

.....

【著者紹介】大野直子(OHNO Naoko) 2007 年、英国バース大学通訳翻訳学修士課程修了。2012 年、東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻博士後期課程修了。現在は、東京大学医学系研究科社会医学専攻客員研究員、法政大学理工学部非常勤講師(アカデミック英語)、法政大学、共立女子大学公開講座非常勤講師 (TOEIC)、国際基督教大学非常勤助手 (通訳)。

.....

